

## 保健師のこども虐待予防の活動と研修との関連性について

○古堅知香子<sup>1)</sup> 小笹美子<sup>2)</sup> 長弘千恵<sup>3)</sup>  
 齊藤ひさ子<sup>4)</sup> 宇座美代子<sup>2)</sup> 當山裕子<sup>2)</sup>  
 1) 沖縄県中央保健所 2) 琉球大学医学部保健学科  
 3) 国際医療福祉大学福岡看護学部  
 4) 佐賀大学医学部看護学科

## 目的

行政機関に働く保健師がこどもの虐待を早期に発見し予防につなげる体制を整備するために、こども虐待に対する保健師の活動とこども虐待予防の研修との関連性について明らかにすることを目的とした。

## 方法

- 調査期間: 平成22年9月1日から平成22年10月30日
- 調査対象者: 沖縄県、佐賀県、福岡県の市町村、保健所等行政機関に勤務する保健師1668名  
(回収数は813名、回収率は48.7%)
- 調査方法: 郵送による自記式アンケート調査
- 調査項目: 基本属性、こども虐待について相談を受けた経験の有無とかかわり方、連携した機関など
- 分析方法: 分析は統計解析ソフトSPSSver19を使用し $\chi^2$ 検定を行い、統計学的有意水準は1%未満とした
- 琉球大学疫学倫理審査委員会による承認を得た

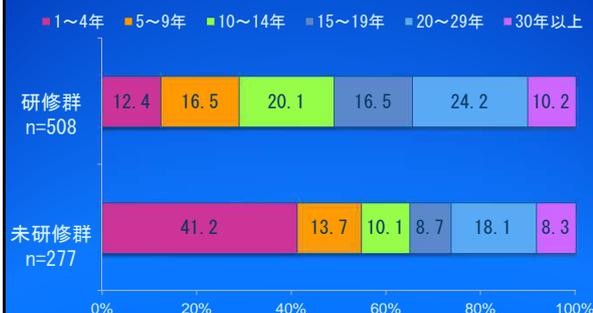
## 用語の定義

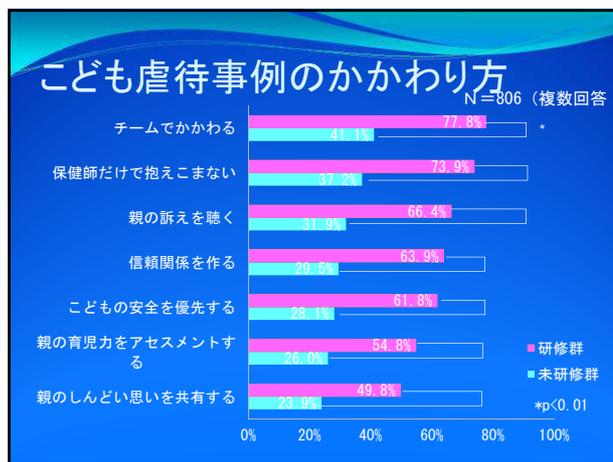
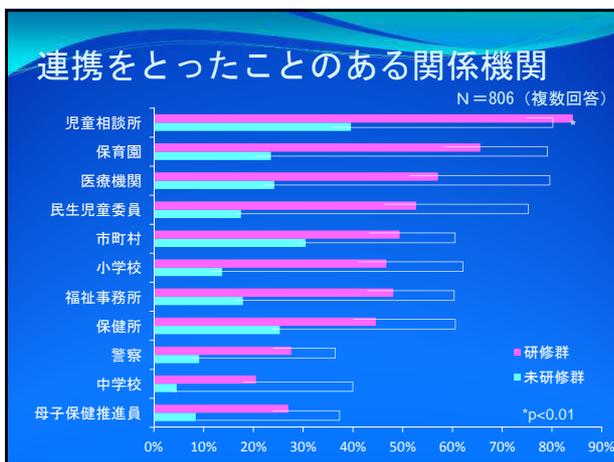
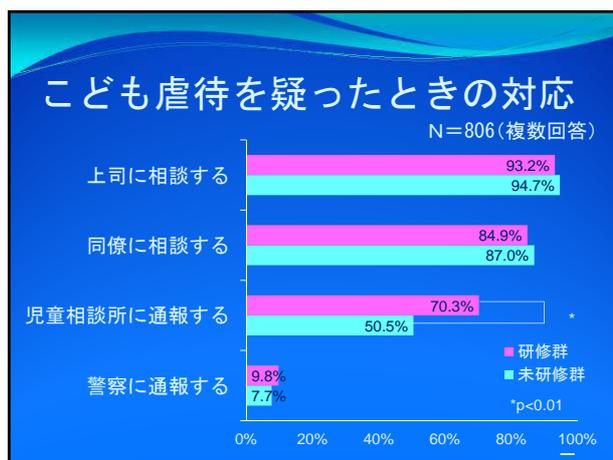
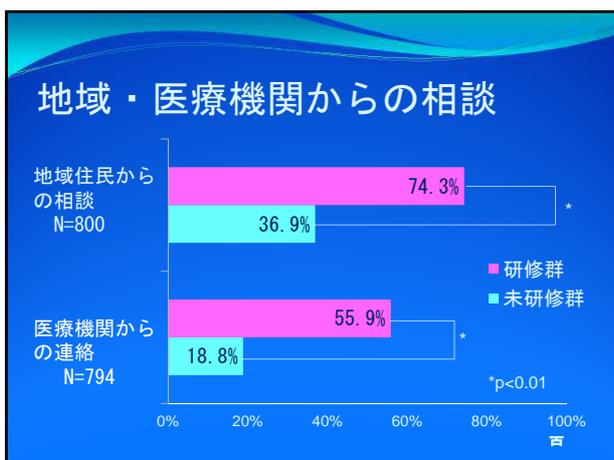
本研究では児童虐待の防止などに関する法律の児童虐待の定義を参考に、こども虐待を「未成年者に対する保護義務者の虐待で、身体的・心理的・性的・ネグレクトのすべてを含む」とした。本研究の調査対象となる行政機関の保健師がかかわる虐待事例は出生直後から就学前の乳幼児が多いと考えられるため本研究では「こども虐待」と表現した。

## 基本属性

		N=806	
		人	(%)
平均年齢		39.6歳	
こども虐待 (疑いを含む)を 経験した事例数	経験なし	192	(23.8)
	1~2例	220	(27.3)
	3~9例	250	(31.0)
	10例以上	121	(15.0)
	未記入	23	(2.9)
こども虐待の 研修	受けた (研修群)	521	(64.6)
	受けたことが ない (未研修群)	285	(35.4)

## 保健師経験年数





- ### 希望する研修内容(抜粋)
- 実際に支援が上手くいった事例を通し、そのノウハウを学びたい。
  - 事例を通して、法律や児相の対応の現状を学ぶ。その中から市町村で行うべきことを考える
  - 事例をふり振り返りながら虐待予防のためにどうすべきであったかどうすれば虐待が防げたかを考える研修、具体的の方策
  - さまざまな事例を通じて、うまく関わった事例や関係機関との連携のとり方などを学びたい。
  - 虐待の早期発見・継続支援(ネットワーク)」「虐待の見分け方。
  - 児相、警察への通報のタイミング
  - 虐待疑いを見抜く方法と関わり方

- ### まとめ
- 未研修群では保健師経験年数1~4年の者が40%を占めていた。
  - 研修群では子ども虐待の連絡を地域や医療機関から受ける機会が多かった。
  - 子ども虐待を疑ったときの対応では、研修群で児童相談所に通報する者が70.3%と有意に多かった。
  - 連携をとったことのある関係機関では、すべての機関において、研修群が未研修群より連携をとる機関が多かった。
  - 子ども虐待事例のかかわり方に関しても、すべての項目において研修群が高かった。

